

水稻栽培技術情報誌

— ダイジェスト版 —

これまで「良食味だより」は、JA京都の広報誌「ぱあとなあ〜」と一緒にお届けしておりましたが、2024年度より偶数月のみの配布となり、情報をよりタイムリーにお届けするため、配布方法を変更いたします。

携帯メール連絡網
「マメール」にて配信！
会員登録方法はP8



田植え後から穂肥施用までのポイント

1. 土から泡が出ていませんか？

土中の有害ガスを抜きましょう。



- すき込んだ稲わらや雑草の分解で土の中の酸素を使い切ると、メタンガスなどの有害ガスが発生することがあります。
- 水田に足を踏み込んだ時、**泡がぶくぶくとたくさん出てくる時**は、ガスにより根の活力が低下し、根張りが悪くなることがあります。
- その場合は、中干し前でも**一度水を落とし**ガスを抜き、土中に酸素を補給しましょう。

2. 中干しを徹底しましょう（田植え後40日頃）

- 中干しの目的
 - ①穂が出ない無効分げつを抑え、**整粒歩合を向上**させます。
 - ②土に酸素を供給することで、**根の張り・活力を向上**させます。
 - ③コンバイン収穫時の機械重量に耐える土の固さを確保するとともに、刈取り前の排水を円滑にして収穫作業を容易にします。
- 中干し開始の目安となる莖数（**キヌヒカリ23本、コシヒカリ20本**）が確保できれば、速やかに中干しを開始しましょう。

- 中干しの程度は、下図を参考にしてください。

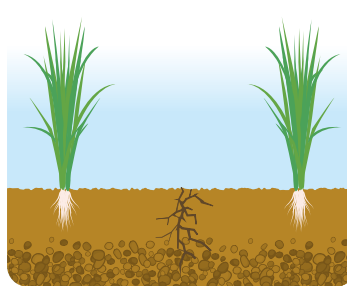
中干しの目安

1



普通田では足がしずむ程度。粘質田、排水不良田ではやや強めにおこなひましょう。

2



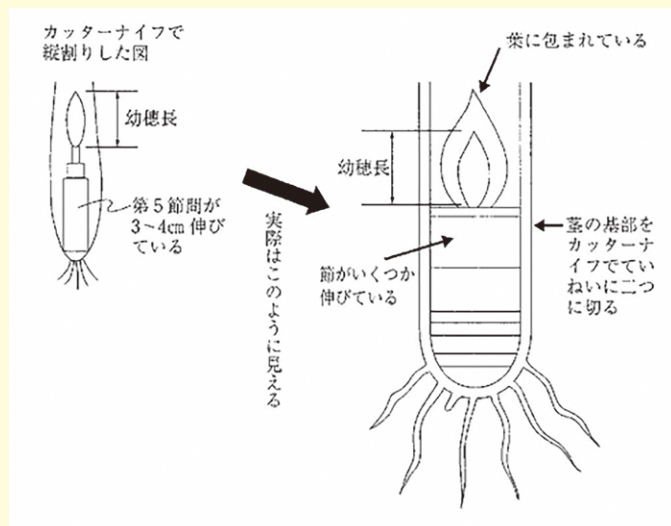
砂質田、秋落田では弱いヒビを入れる。

- 中干し後は出穂前まで間断かんがい（3湛4落…3日水を溜めて、4日間落水する）の繰り返しで根の活力を維持しましょう。

3. 穂肥は適期に施用しましょう（田植え後50日頃）

- 1回目の穂肥の目的は**穂数を増やす**ことです。施用時期が早いと草丈が伸びすぎて、倒伏しやすくなります。
- 2回目の穂肥の目的は**粒の充実**を促すことです。施用時期が遅れるとタンパク質含量が増えて食味の低下につながります。
- 出穂期は品種、田植日、地域、気象条件等で異なるため、幼穂長を観察して予測します。

品 種	1 回 目		2 回 目
	施用時期（幼穂長）	備 考	施用時期
コシヒカリ	出穂18日前（10mm）	葉色板の数値3.5以下で施用	出穂10日前
キヌヒカリ	出穂23日前（2 mm）	// 4.0以下で施用	出穂13日前



※基肥一発肥料を施用した場合は、穂肥は必要ありません。



出穂期のポイント

1. 出穂期前後の管理について



全茎数の40～50%が出穂した日が出穂期です

●水管理

穂ばらみ期（出穂18日前頃）から出穂期は、稲の生育期間中で最も水を必要とする時期です。この期間は湛水状態で管理しましょう。

出穂後は間断かんがいを行い、土に酸素と水を供給してください。

●高温対策

出穂以降20日間が高温になると、白未熟粒が増加し、米の食味が低下します。

以下の管理を実施しましょう。

①掛け流しかんがい

気温より低い用水を掛け流すことにより、地温と水温を低く抑えます。

②夜間落水管理

晴天時の昼間は深水管理を行い、夜間に落水することで、地温と水温の上昇を抑えられます。

③飽水（湛水せずに土を湿潤に保つ）管理

用水が少ない場合は、飽水管理により、根の活力が維持され、白未熟粒が減少します。

●穂肥の時期は幼穂の長さを確認して予測しましょう。

幼穂長と出穂前日数、品種毎の穂肥時期の目安は以下のとおりです。

幼穂長	1mm	2mm	5mm	1cm	5cm
出穂前日数	25日前	23日前	20日前	18日前	12日前

品種等	1回目		2回目	
	時 期	施肥量*	時 期	施肥量*
コシヒカリ	出穂18日前	10～15	出穂10日前	8～15
キヌヒカリ、ヒノヒカリ	出穂23日前	12～15	出穂13日前	8～15
穂肥の目的	籾の数を増やす		籾を充実させる	

※施肥量は化成肥料17-0-17を使った時の10a当たりkg

2. カメムシ類対策を徹底しましょう

※等級落ちの主な原因は、**斑点米カメムシ類**による被害です！



(写真：京都府病虫害防除所提供)

斑点米カメムシ類の対策は万全を期してください。今年の発生状況は、6月下旬に発表される病虫害発生予報をご確認ください。

●畦畔の草刈り

1回目：出穂3週間前

畦畔上のカメムシ類の密度を低下させる

2回目：出穂直前

カメムシ類の餌となる雑草の出穂をなくす

※1回で済ませる場合は出穂10日前までに行う。出穂後に草を刈ると、雑草のカメムシ類が田んぼに集まるため、かえって被害が拡大することがあります。

●薬剤防除

共同防除を行わない地域では、薬剤による仕上げ防除を確実に行いましょう。

飛散の少ない粒剤の施用をおすすめします。

3. トビイロウンカにも注意しましょう！

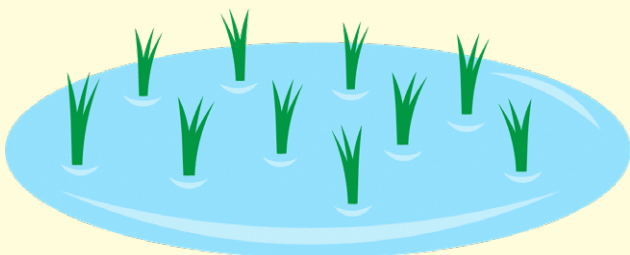
令和2年には府内の1千haで354tもの減収をもたらした**トビイロウンカ**にも注意して観察しておきましょう。

●8月に入ったら、株元を重点的に観察します

●発生を認めたら出穂期の基幹防除時に殺虫剤を散布します



写真：トビイロウンカ 長翅型成虫(左) 短翅型成虫(右)





刈り取り準備のポイント

1. 出穂後の水管理

- 出穂から20日間が高温になると、乳白粒が増加するとともに、米の食味が低下します。地域の用水に余裕がある場合は、掛け流しかんがいにより株元温度を低下させましょう。用水に余裕がない場合は、昼間あたたまった水を、夕方、入れ替えるだけでも効果があります。
- その後、刈取り間近まで間断かんがいを継続します。

2. 早期落水は品質低下のもと

- 稲は刈取り直前まで、養分を籾に送ります。
- 落水が早いと水不足により籾に養分を送れず、充実不足や胴割粒の発生により、品質が低下します。
- 刈取りの7～10日前までは間断かんがいに努め、根の活力をできるだけ維持しましょう。**
- 刈取り適期はP6で記載のように緑色籾割合で判断しましょう。8月は3日ほどで、9月上旬は4日ほどで1割ずつ減っていきます。天気予報も見ながら計画的に稲刈りしましょう。



3. 機械は早めの点検・修理を！

- 収穫期間中に機械が故障すると、作業が予定どおり進まず、品質にも影響します。
- コンバインや乾燥機等の収穫機械・調製設備は、**事前に清掃・点検・修理**を行ってください。
- 水田出入口は、コンバイン搬入時に特に事故発生が多い場所です。集中して操作しましょう。



4. 適期刈取りで品質低下の防止を！

良食味米生産の仕上げとなる重要な作業です！



- 刈取り適期は穂の粳をみて判断します。大部分の粳が黄化し、**緑色粳**の割合が全体の**10～15%**となった時期が収穫適期です。
- 刈取りが早いと青未熟粒や未熟粒が増え、刈取りが遅いと胴割れや穂発芽等が発生します。**適期刈取りを心がけましょう。**
- 水分が高い粳を放置すると、ムレ米が発生します。収穫後は**4時間以内**に乾燥作業に入れるよう、ライスセンターへの持ち込み、乾燥機への投入を速やかに行いましょう。





来年作に向けて

1. 刈り取り後は「土づくり」を！

米は地力で稔るといわれます。秋から地力アップ！

(1) 稲わらは秋にすき込んでおきましょう

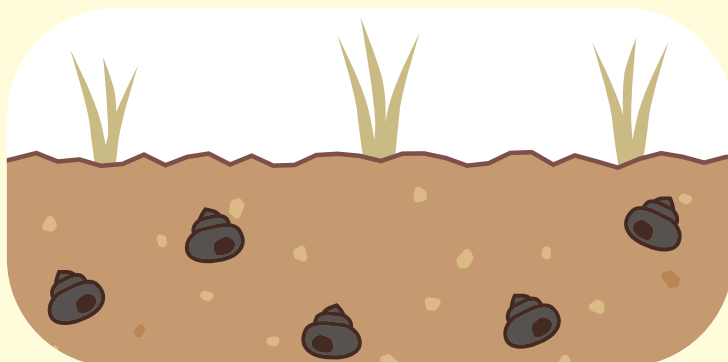
- 秋に稲わらをすき込むことで、春までに分解が進み、**田んぼの地力が向上**します。
- 早めにすき込むことで、来春、田植え後の有害な硫化水素や温室効果ガスのメタン発生を減らし、根張り不良や生育不良を回避することができます。
- 獣害防止の観点からは、10月以降に耕うんすることで、冬場にイノシシやシカのエサとなる緑草や刈株からのひこばえを減らせるので、時期は事情に合わせて考えましょう。

(2) 土づくり肥料を活用しましょう

- 稲は大量のケイ酸を必要とします。稲わらのすき込みとあわせて「ケイ酸肥料」を補給することが大切です。
- ケイ酸肥料は、コストや労力の観点から省略されることが多い肥料ですが、受光態勢の向上による**収量・品質のアップ**、**倒伏防止**等の効果があります。
- ケイ酸肥料は「**とれ太郎**」（ケイ酸30%、施用量80～100kg／10a）が効果的です。

2. 秋冬期はジャンボタニシ（スクミリンゴガイ）対策を！

- ジャンボタニシは、寒さに弱く、殻が柔らかいため、**秋冬季に耕うん**し、貝を減らしましょう。**ロータリの回転を速く**しましょう。
- ジャンボタニシは、泥や土の中などで越冬します。**水路の泥上げ**などを行い、**越冬場所を減ら**しましょう。
- 未発生ほ場に侵入させないようにしましょう。既発生ほ場から土や泥を持ち込まないよう、**未発生ほ場から作業を実施**、**農業機械の洗浄**を行いましょう。





2025年度からは、携帯メール連絡網「マメール」にて配信し、いつでも、どこでも携帯・スマホで「良食味だより」をご覧ください。その他にも技術情報をお届けいたしますので、この機会に是非ご登録ください。

「マメール」の会員登録をお願いします。手順は1～3と簡単!!

- 1 **oishiikome@mamail.jp** まで、空メールを送信してください。
(※右のQRコードから標記アドレスは読み取り可能です)
- 2 送信後、標記アドレスから申込み完了メールが届きます。
- 3 登録完了です！情報が届くのをお待ちください。



お問い合わせ先

- | | | | |
|------------|------------------|------------------|------------------|
| ●園部支店生産課 | TEL.0771-62-1688 | ●亀岡川東支店生産課 | TEL.0771-25-2093 |
| ●丹波支店生産課 | TEL.0771-82-1124 | ●営農部営農施設課 | TEL.0771-22-6985 |
| ●亀岡中部支店生産課 | TEL.0771-25-4423 | ●京都府南丹農業改良普及センター | TEL.0771-62-0665 |

発行元：京都丹波米良食味推進協会